

平成29年度 明石市総合教育会議（議事要旨）

日 時	平成29年(2017年)5月17日（水）16:00～17:05
場 所	明石市役所議会棟 第3委員会室
出席者	泉房穂市長、公家裕教育長、川本まり子教育委員、日下孝明教育委員、井筒典久教育委員、栗岡誠司教育委員
協議・調整事項	(1)中学校給食の実施について (2)学校における読書推進について (3)学校施設の有効活用について (4)教職員研修の充実に向けた取り組みと教職員人事権等の移譲について (5)その他
配付資料	・次第 ・出席者名簿 ・資料1 中学校給食の実施について ・資料2 学校における読書推進について ・資料3 学校施設の有効活用について ・資料4 教職員研修の充実に向けた取り組みについて ・資料5 教職員人事権等の移譲について
事務局	政策局政策室

1 開 会

（事務局）

- ・この度、総合教育会議の運営要領を改正した。本年4月の組織改正に伴い、組織の名称変更があり、第5条第1項の事務局名称のうち、政策部を政策局に置き換えている。

2 議 事

(1) 中学校給食の実施について

- ・教育委員会から、資料1に基づき、中学校給食の実施について説明。

（市長）

- ・モデル校3校については順調に進んでおり、東部について、ハード面の整備は予定通り、ソフト面についてもモデル校を踏まえながら準備を進めているとのこと、来年4月開始の目途はどうか。

（教育委員会）

- ・最初の週は始業式、入学式や課題考査などがあるので、翌週間もなくスタートしたい。

（市長）

- ・5月、6月でなく、4月からスタートできそうか。

(教育委員会)

- ・次の6月議会で業者選定を承認いただくなど、スケジュールに沿ってその辺りを目指し、進めていきたい。

(教育委員会)

- ・食物アレルギー対応について、モデル校では学校給食員が非常に重要であるという認識がある。現場では、これから始まる10校についても来てほしいと聞いているので、できるだけ早く始める上でも、当初は人的な配置が必要という思いを持っている。
- ・学校からも、1校1人の方が良いという意見もお伺いしているため、状況を把握して意見交換しながら検討したい。

(市長)

- ・他市はそこまでやっていないが、明石は積極的に市単独予算をつけて行っている。さらに配置するかが論点となる。

(教育委員会)

- ・3校に配置している給食員は非常によく頑張っており、上手く回っている部分もある。
- ・アレルギー対応は給食員や配膳員の努力も大切だが、先生たちが共通理解をしておくという事が大切である。

(2) 学校における読書推進について

- ・教育委員会から、**資料2**に基づき、学校における読書推進について説明。

(市長)

- ・明石の総合戦略の3つの柱の一つで「本の貸出冊数300万冊」を進めており、今年の1月に市民図書館がオープンし、前年の約4倍の人が来て、貸出冊数も増えている状況である。
- ・まち全体の目標であり、駅前の市民図書館のみが賑やかであることに意味があるのではなく、子どもたちに学校でも本に親しむような環境作りが更にできないかという思いを持っており、積極的に力を入れていきたい。
- ・学校によって、借りている本の数にかなりばらつきがあり、本がたくさん読まれているような学校等を参考にしながら、全体的により本を読みやすいような時間をつくるのか、教室に本を持ってくるのか、いろんな方法はあるかと思うが、その辺りの取り組みを期待したい。
- ・中学校では夏休みに、図書室が開いているのか。

(教育委員会)

- ・夏休み中、小学校は空調整備したので全校開いているが、中学校は基本閉まっており、学

校への働きかけをしていきたい。

(市長)

- ・夏休みの途中で本の貸し借りができれば、夏休みの間にいろんな本を読める。
- ・開放できないのは、誰が図書室のカギを管理するかが課題になるのか。

(教育委員会)

- ・管理体制がないと図書室だけ開けるとするのは難しい。
- ・学校司書の配置体制は、配置時間が5時間45分で、フルタイムで働くには少ないという意見がある中、司書とは別に、退職した教職員や、本の好きな方を各学校に1名配置できれば、司書の負担が軽減され、司書が学校を回っていただく形もできる。
- ・現在、配置校は小学校4校、中学校4校であり、できれば全校に増やしていきたい。

(教育委員会)

- ・例えば理科の本でも算数でも本の内容が変わっていく訳で、ある程度揃えられているだろうが新たなものはどれだけ入っているのか。それは学校図書室の魅力にかかわり、古い本ばかりでは魅力に欠ける。
- ・学校司書の配置、学校図書の購入費の両方ともお金がかかることなので、その辺充実していただきたい。

(市長)

- ・お金がない時こそ、本を買うことでまちが育つとの発想で、図書館を駅前に移して来館者数を4倍にし、本の数も2倍程に増すなど順次まちづくりを進めている。移動図書車も2台買うので、市民図書館の本を回すことが可能であれば、あえて各学校に新しい本を買わなくても、知恵を絞り、本を回すような方向もありかもしれない。

(教育委員会)

- ・団体貸出で申し込みば、本の配達も来てもらえる。

(市長)

- ・本を読んだ感動とか思いを人に伝える機会として読書感想文があるが、最近明石では本の帯や一枚の絵に感動を表わすコンクールを実施しており、毎年応募数も増えてきている。
- ・本に接した子どもたちが本の内容を発信、伝えたりするような機会や楽しみという部分もあり、可能であれば明石の子どもたちみんなに参加いただきたい。

(教育委員会)

- ・本の帯の方については、参加校に偏りがあるので、働きかければ本への関心にもつながる。

- ・個々の授業において取り組むことができれば、変わってくると思う。

(市長)

- ・大阪で開催された子どもたちのビブリオバトルの大会に出席した。自分の読んだ本を3分程度で発表し、聞いている者が読みたくなった本に投票するものだった。大阪府の国語の先生方が、中心となって実行委員会を作り、各学校で予選大会を実施し、勝ち抜いた人が大会に参加できるという仕組みである。いろいろな工夫をしている自治体もあるので参考にしていきたい。本のまちの取り組みを進めているので、いろいろ知恵を出していただければ。

(教育委員会)

- ・日頃から図書館に行っている子もいれば、全然行ったことのない人もいるので、図書館遠足を実施した。
- ・西部図書館も活用できればと思う。

(市長)

- ・市としては、総合戦略に位置づけ、年次的に順次力入れて続けていくので、言っていただければ予算面なり、いろいろな工夫なりを含めて全体的に応援させていただきたいと強く思っている。
- ・数値目標として、本の年間貸出冊数 220 万冊の状況から 4 割増やした 300 万冊を設定しているが、駅前に市民図書館が移設されたことで、予想としては 60 万冊くらい貸出冊数が増える可能性があり、それにより 280 万冊位までは、貸出冊数が増えそうである。あとの 20 万冊は、学校図書の利用などで、子どもたちがたくさん借りてくれれば、トータル 300 万冊となる。
- ・今後、まちなか図書館というテーマもあるので、各地域において、病院や金融機関の待合室などに本を読める空間を作ることも考えたい。
- ・小中学校には図書室という空間があるので積極的な活用をお願いしたい。

(3)学校施設の有効活用について

- ・教育委員会から、**資料3**に基づき、学校施設の有効活用について説明。

(市長)

- ・総論としては、地域に開かれた方が、学校や子どもたち、地域にとっても望ましい。子どもたちの教育が最優先は当然で支障があると困るが、一定程度調整できる範囲で、地域の方々にもご利用いただける方法があると思っている。
- ・たくさん箱物をつくり、空間確保ができる時代状況ではない中、多くの地域の方々の活動が熱心になっている。特に定年後の方々を中心に様々な活動が盛んになっているという反

面、活動する場所が確保しがたい状況である。そういう活動のためだけの空間に新たに予算措置するのがどうなのかという議論がある。

- ・明石の場合には、相当子どもや教育には予算をシフトし、重視しているという認識である。バリアフリー化やエアコン設置など、教育現場に相当程度の予算を含めて対応している状況の中、その施設をより地域に開かれた形で活用いただくというのは、トータルな話としては十分有り得る。
- ・地域の方々と子どもたちの交流ができれば、子どもにとってもプラスに働くのではないか。これまでの経緯の中で色々課題はあろうかと思うので整理いただき、場合によってはモデル校的なスタートでも良い。市長として、地域に活用いただけるような道を安定的に続けていただきたいと強く思う。

(教育委員会)

- ・学校側の時間管理の面はあるが、空間を利用することについて、反対の意見はあまりないと思う。地元の人と学校側も話し合う中で必要があるならば考えていきたい。

(市長)

- ・例えば、学校の子どもたちと非常に係わりの深い子ども会やスクールガードなどが、会議の場所として使用していただくこともありと思う。どの辺りで整理するかというのと管理責任をどうするのが問題である。

(教育委員会)

- ・そういう会議は夜にしたいという要望があり、夜に開放する工夫がいる。
- ・誰でもとなれば、不特定多数に來られた時の安全面が怖い。基本的には何らかの対策が必要。

(市長)

- ・ある程度学校と係わりの深い団体を登録制にして、登録団体には夏休みとか土日の一定時間の活用を可能にするとか、いろんな知恵が有ると思う。課題は見えてくるかもしれないが、いきなりではなく、できるところからだとは思ふ。

(教育委員会)

- ・大変良いことだが、教頭に事務が集中しないかと大変心配している。市長の提案のように上手く進めていくシステム作りがいる。今の既存のシステムの中で進めていくと、たいていは教頭に負担が増えるので、整備がいる。

(市長)

- ・基本的に教育については、教育現場が最も詳しいので、現場の声をしっかりと踏まえなが

ら進めていくのは当然だ。

- ・いろいろ工夫されているが、学校現場における先生たちの負担が非常に過度になっている状況で、それをどうやって軽減し、より子どもたちに集中してもらえる時間をつくるかというのが大きなテーマで、必要なことについて、市長部局としても様々な形で応援する。漫然と過度な負担を課すということではなくて負担軽減のためにどのようにしていくか知恵を出し合っていきたい。
- ・教頭先生が朝から晩まで管理責任を負うような実態であれば、何か知恵を絞りながらどうするかを整理していかないと。パンクするような状況にしてはいけない。
- ・早急に整理するようにはしていただいて、モデル校的なやり方なのか、いろいろ工夫は有るかと思いますが、いわゆる地域に開かれた学校をぜひお願いしたい。

(4)教職員研修の充実に向けた取り組みと教職員人事権等の移譲について

- ・教育委員会から、**資料4**に基づき、教職員研修の充実に向けた取り組みについて、**資料5**に基づき、教職員人事権等の移譲について説明。

(教育委員会)

- ・研修に関しては、現員では対応しきれないため、将来的にもう少し人を増やす必要がある。
- ・教職員の人事権に関しては、全国的に意見は出ているがあまり進展がないようなので、勉強しながら検討していく。

(市長)

- ・人事権に関して、よく言われる課題としては2つ。一定規模の人口規模、言い換えると学校を複数持っていないと人事が滞留し、人事異動が現実的にできにくい面があるということ。また、一定の規模の市が独自に採用すると周辺の小さな自治体は採用が難しくなるのではないか、つまり全体で見た場合に大都会といわれるような所に人気集中してしまうと教育の平準化、教職員の質の平準化が保てるかということが論点とされている。
- ・一つ目の論点について、人事権の移譲を受けている鳥取県等は人口規模では50万程度であり、子どもたちも少ない。人口規模30万の明石ができないのかという論点になる。明石は中学校が13、小学校も28あるので人事異動が不可能なほど小さなまちではない。
- ・二つ目の論点については、明石の場合、周辺で言えば神戸市があり、明石が独自に採用したら神戸市が困るのか、ということになる。特に大都会の周辺が過疎地のような場合、独自採用になることが課題につながるという論点があったと聞いているが、明石の場合は、周辺部が教職員人事権を持っている神戸市なので、ご迷惑をかけるという事ではないというように認識しているが、いずれにしても簡単なテーマではないと考えている。
- ・研修の件では何かご意見はあるか。

(教育委員会)

- ・研修施設は早く行けるという意味では、近くにあるのが良い。東部では保健センターになるが、西部にも研修センターのような所が確保できれば。
- ・研修権は、内容等も含めて選択できるのか。

(市長)

- ・基本的には初任者研修も含めて実際の現場となる明石に相応しい育成をする研修が中心になろうかと思う。

(教育委員会)

- ・教員研修も人事権も共通する部分で気になるのは質の確保である。県レベルで研修をやるのと県レベルで講師を呼べる。市レベルとなると、優秀な講師を県では呼べるが市では呼べない、そういうことが起こらないか。その辺は県と共通の部分でクリアできるのか。ぜひ質の低下にならないようサポートをお願いしたい。
- ・人事権でも同じことが言えるのではないか。県全体で採用する人、市単独で採用する人、応募者をそれなりに確保できればいいが。やってみないと分からないことではあるが、やはり質の確保ができるというのは担保しないとイケない。

(市長)

- ・全くその通りで、特に教育は人で、人あつての教育だと思っており、質が重要である。
- ・明石市の場合、来年に保健所を設置し、多くの人材が必要となる。県の場合は複数の保健所に人事異動が可能だが、その中で明石が一つの権限を持つことができる。
- ・平成30年設置の児童相談所については、今のテーマと重なる。児童相談所も大きな単位で持つと児童相談所は複数あり、人事異動が可能だとか、採用がしやすいとかいう論点がある。小さな自治体が児童相談所を持つと専門性の高い優秀な人材が集まるのかという論点、研修も一つの小さな規模で特に児童虐待防止という専門性の高い研修が可能かという論点があり、非常に大きな論点になっている。
- ・明石の場合には、保健所についても児童相談所についても全国公募で採用を続けているが、現場からも非常に優秀な心ある人が集まって来ていると聞いている。
- ・その最大の理由はやはり発信だと、つまり明石が本気で子どもを核としたまちづくりを進め、児童虐待防止を本気でやろうとしている、保健所や動物愛護センターについても殺処分ゼロの動物愛護センターを作る、というようなことを発信すれば、他の現場にいる方々もそういう風な志の高い自治体であれば今のところを辞めてでも行きたいと。非常に優秀な方が明石にお越していただく方向で動いている。
- ・しっかりとまちづくりの方向性やどのような人に来てほしいかということ発信することにより、一定程度はそういった懸念も払拭できる面はあるとは思っている。
- ・もっとも教員人事権についてはこれまで全国的に進んでいない経緯もあるので、まずは勉強から。特に豊中市の採用がどうなっているか、その結果どういう状況かということ等は

当然参考にした上で、今後議論を進めていく。

(教育委員会)

- ・職住接近で、子育て中や障害者のある方など配慮が必要な方を地元で採用し、地元で働けるというのは魅力の一つだと思う反面、やはりいろんな土地を知っている市外の先生を採用することも必要と考える。

(市長)

- ・2年後に児童相談所を設置し、児童虐待について市が責任を持って子どもを支援することが始まる。この半年くらいで10か所以上の相談所を視察して、協議を進めているなか、子どものSOSの早期把握が課題と考える。
- ・最近、特に通報が増えているのは警察からであり、早い段階で児童相談所に連絡が入る。地域差はあるが病院関係からも連絡が入り、警察や医療ルートという部分がかなり大きくなっているが、もちろん地域の方からの通報もある。
- ・課題は、意外と学校現場からが少ないこと。特に小中学校でも様々な事情を抱える子どもたちがいるので、学校現場で子どもの危機や心配な状況というのは実際もう少し把握できているのではないかと。その割には意外と教育現場から児童相談所への連絡は少ない。
- ・その理由は、毎日子どもに向き合っているので若干麻痺する面もあるかもしれないし、場合によっては親御さんとの関係もある。子どもが心配だということを連絡すると、その家庭の方に訪問され、誰が連絡したのかということになると、悩ましい面が出てくるという経緯があるかもしれないという声も聞く。
- ・明石としては児童相談所を設置するので、学校現場からそういった情報が得られやすいような仕組み作りが必要である。通報した学校の先生に不利益が起こらないような工夫を考えていかないとなかなか難しい。学校現場との更なる連携・情報共有化などは問題意識を持っており、いろいろ知恵を借りたい。

(教育委員会)

- ・子どもたちが小学校、中学校に入ってきた時に、明石の小学校、中学校いいよねと言ってもらえるようなものを作っていきたいので、今後の研修内容や教職員の人事権の委譲も含めて相談しながら動いていきたい。

(5)その他

(教育委員会)

- ・やはり気になるのが、先生方の忙しさ。何とかできないか。
- ・人を配置することもだが、中学校においてはクラブ活動が負担ではないか。
- ・現場はそこまで踏み込めてないので、これからの課題である。
- ・確かにクラブ活動が中学校、高校では一番大きいのは事実だと思う。それで中学校、高校

の先生も、自分が運動経験とかその部活の経験がなくても当然割り当てられる。それをどうしたらいいかはなかなか難しい。

(市長)

- ・間違っていたら訂正いただきたいが、他の国ではそんなことになってない。子どもに向き合う人と放課後担当する人と分けているのではないか。

(教育委員会)

- ・アメリカなど、どの国も分けているという認識でいる。

(市長)

- ・中国でも、夕方4時までの先生と4時以降に担当する先生が別々で当たり前だと聞いている。

(教育委員会)

- ・日本のスポーツ振興において、中高のクラブ活動は大きなウエイトを占めている。
- ・インターハイや全中など、上部団体から変えていかないといけないようなことがある。
- ・我々も、各学校や市で何か取り組めることをやっていかないといけないと思うが、全国的な学校のシステムに問題があると思う。

(市長)

- ・学校の先生の負担が大変であることは当然認識しており、それをどう負担軽減を図るのか。その負担が理由で、図書室を開けるのが難しいとか、子どもに向き合う時間がとれないというのは非常に不幸なことである。
- ・クラブの時間を区切って夕方5時までにはすることはできないか。

(教育委員会)

- ・全体でどうとはそこまで言えない。
- ・そこにかかる期待感や日頃の子どもの関係など、割り切りが難しい所がある。

(市長)

- ・教育委員会から教職員の負担軽減に向けての具体的な提案などあれば、真摯に市長部局も予算を伴うもので対応を検討していきたい。

(教育委員会)

- ・中学校、高校の先生が教科指導に充てる時間をもっと欲しい。クラブ活動により、教科指導の準備を薄くしている面があるのも事実である。

- ・先生に余裕の時間が必要だと思う。日本全体の問題だと思うが、何らかの形で明石独自のことができればというのがあれば面白い。
- ・校務支援システムや、病院現場では事務を支援する専門職を雇う医療クラークを導入しており、教育でも考える必要がある。
- ・何かあった時に校長がすべて把握しているかという現実にはできてない。子どもの出席状況や基礎情報、安全管理や成長の状況を共有できるという意味では校務支援システムの導入は必要と考えている。整理するには相当な手間や経費がかかるが、本格的に検討する時期になっていると承知している。

(市長)

- ・問題意識として、子どもたちの学力の状況がどうなっているか。明石の子どもたちの勉強が今一つであるという誤解がいまだにあるが、客観的には、努力の成果が出ていて力がついてきている。
- ・もう一つは、学区再編であり、市長会において、学区が変わった中でどういった影響があるかという議題が提示されたが、何らかの対応が必要なのか。
- ・例えば、明石の子どもたちも加古川東高校に毎年 70 人くらい行っている中で、単純にそれを評価するのは難しいが、それをどう見るか。明商についても、明石からが多いが、市内、市外の割合について議論がある。小中学校までは通常明石の学校で、高校に行く時にどうなるのかということも、少し問題意識持ちながら何かやる必要があるのかも含めて、まずは実態を確認するということが必要かもしれない。
- ・明石で生まれ育った子どもたちが引き続き明石の中で育ち、また明石を支えていただくような方向づけも一つのテーマだと思う。

3 閉 会

(市長)

- ・来年 4 月の中核市への移行を控え、教職員研修の問題やさまざまな課題も抱えているので、今後、総合教育会議の開催頻度を増やす方向で考えたい。
- ・私の方からも議題を提示するが、各委員さんの方からも情報共有化や確認したいテーマ等があれば、積極的にご提示いただきたい。
- ・教育とは、教育現場こそが大事であり、その思いを汲んで、やりやすい環境整備に取り組んでいく。
- ・市長としては予算づけや一定の方向づけを、ご相談しながら進めていく立場なので、ぜひ教育委員会や現場の方々とより密に情報共有していければと思っているので、よろしくお願ひしたい。

以上